















# 利賀村史

2

近世









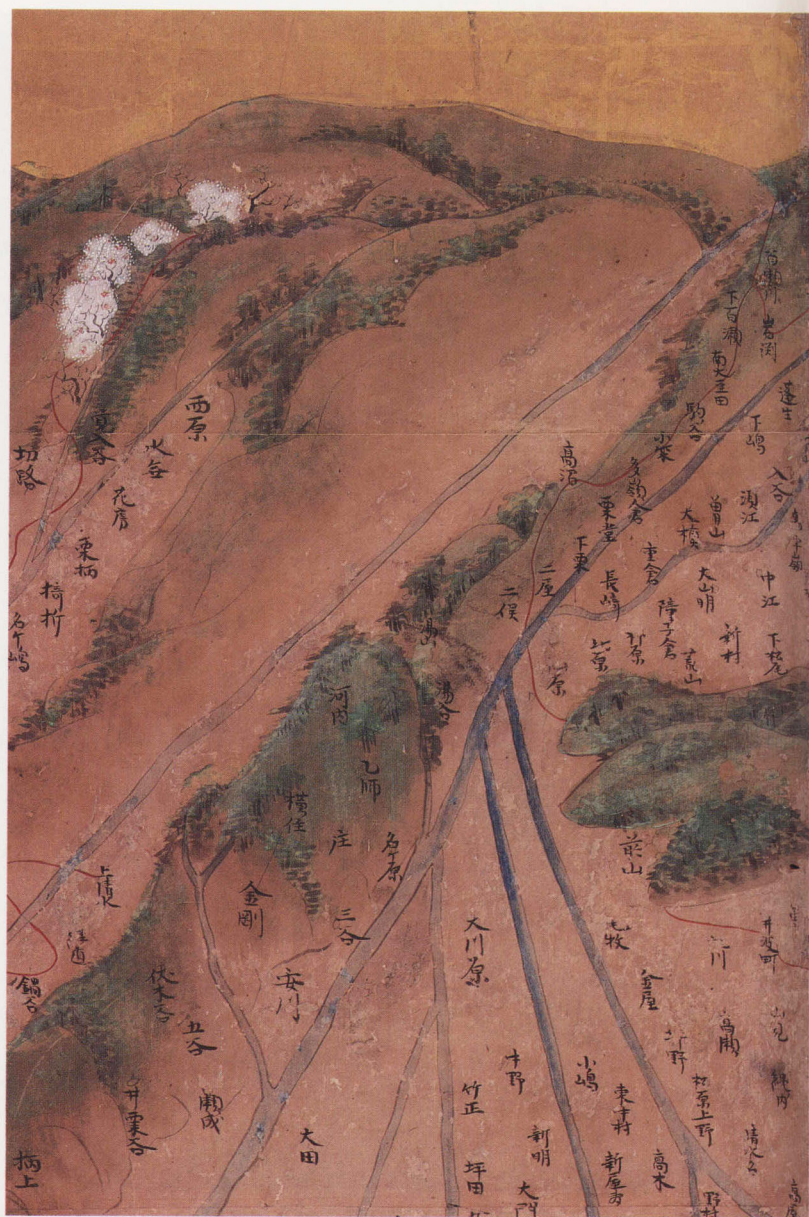
百瀬川流域（左）と利賀川流域（右）上流を望む（空撮）





もに、越中絵図としては最古の部類に入る逸品とみられている。藩政初頭の成ヶ谷（北豆谷）、南大豆田（大豆谷）、蓬生（北島の古名）、鷹見場（大勘場）、（本文70ページ参照）。





越中国図屏風（部分） 財団法人 富山佐藤美術館蔵

この絵図は加越能文庫の『越中国古絵図』や宇野慶一氏蔵の『越中国図』と  
立と推定され、利賀川沿いに栗堂（栗当）、多嶺倉（草嶺倉）、小柴（押場、駒  
水並（水無）など、近世の村名とは若干違った村名表記を読み取ることができる





『加越能文庫』とともに幕府提出絵図の写しとみられるものである。村の位置、一里塚（：印）、橋、箆の渡りなどが詳細に記されている。

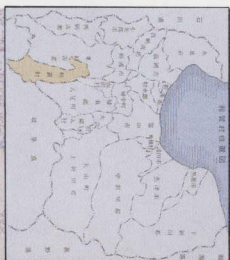




越中国四郡絵図（部分） 小矢部市石動図書館蔵

正保4年（1647）、加賀藩は幕命により領内絵図を作成・提出した。この絵図は『加越能三などには必ずしも正確でないところもあるが、主な街道（朱線）、村名と草高、村々間の里

# 利賀村全図



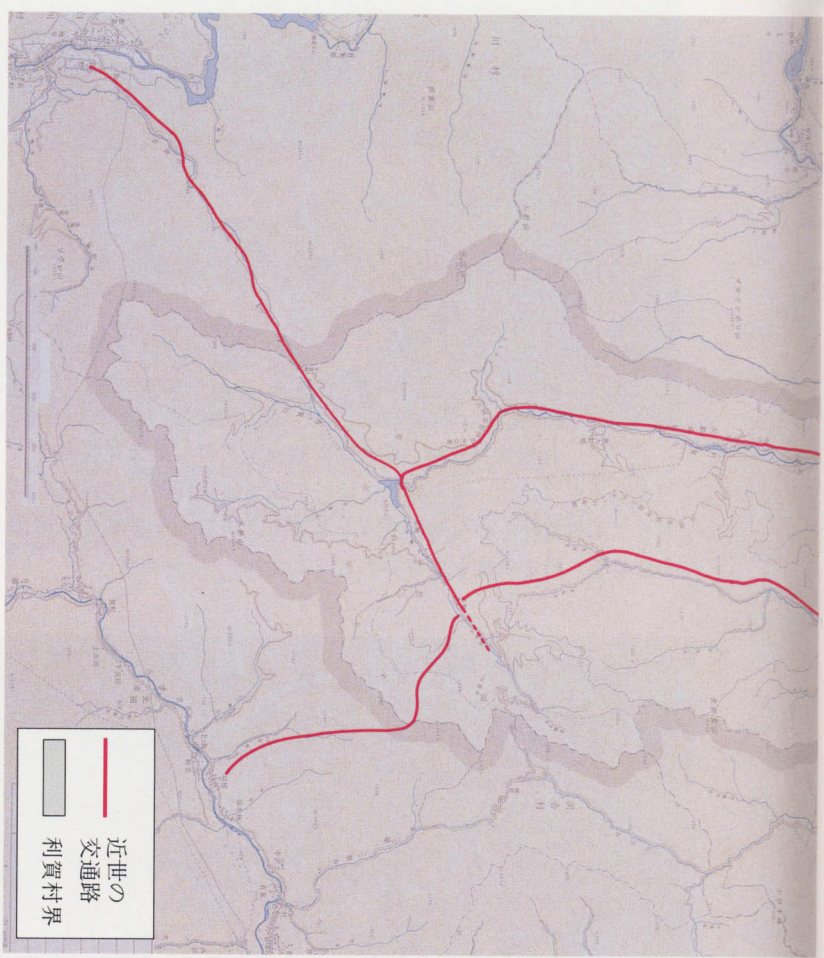
地名対称表

現	近世
新山原	新山村
新橋原	新橋原村
下原	下原村
大牧	大牧村
重倉崎	重倉崎村
北原	北原村
仙納原	仙納原村
栗当	九里ヶ当村
高沼	高沼村
草嶺	草嶺倉村
押場	押場村
北豆谷	北大豆谷村
美豆谷	南大豆谷村



下百瀬川村	下百瀬川村
上百瀬川村	上百瀬川村
下利賀村	下利賀村
下鳴村	下鳴村
岩渕村	岩渕村
北鳴村	北鳴村
細鳴村	細鳴村
上畠村	上畠村
坂上村	坂上村
阿別当村	阿別当村
大勘場村	大勘場村
水無村	水無村

注 現行の地名は大正2年の村議会で議決され、現在に至っている。ふりがなも同年の議決書によったが、一部に現在の呼称と異なるものがある。

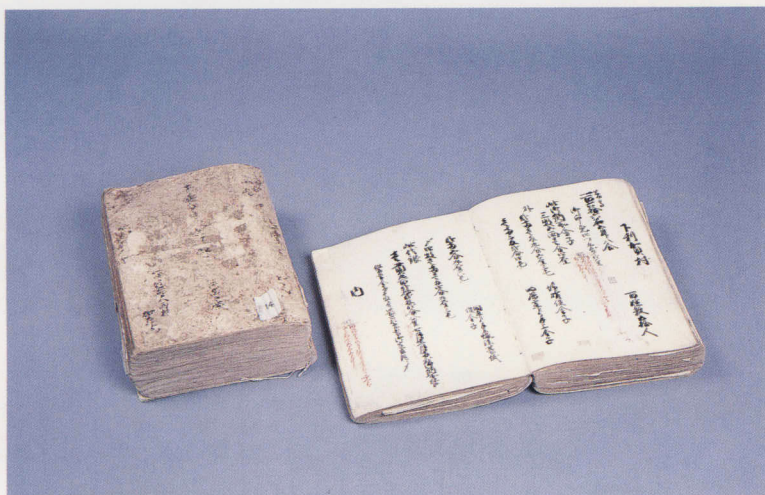


建設省国土地理院発行の5万分の1地形図より作成



村指定文化財 南大豆谷村土地文書 南大豆谷区有

文政元年（1818）の碁盤割以降の土地関係史料がほぼ完全に保存されており、加賀藩政下の土地制度のみならず、明治の地券制度への移行の経緯をも解明し得る貴重な史料である（本文268ページ参照）。



村指定文化財 五ヶ山両組草高免附百姓数品々帳 利賀民俗館蔵

『利賀谷組三十七ヶ村草高免附百姓数品々帳』と『赤尾谷組三十三ヶ村草高免附百姓数品々帳』から成り、天保10年（1839）から明治4年（1871）までの百姓持高の移動が記されている。本書では『天保十年品々帳』とした。





利賀民俗館

約200年前に建築された合掌造り家屋を移築して昭和44年に開館。平成7年、後世の増改築部分を建築当初の姿に復元し、現在地に再移築された。内部には養蚕・塩硝・製紙など、近世から近代にかけての産業史料も展示されている。



村指定史跡 栗当の不動明王摩崖像

近世の利賀谷街道の入口、仙納原小橋近くの巨岩に半肉彫りされ、「天保十五年（1844）甲辰四月□八日 越中住人 森準慶作」の造像銘がある。難所の多い利賀川筋往還の守護を不動明王の靈威に託して刻まれたものとみられる。

加越能名物往來  
五箇往來

五箇往來 五谷山文庫

中世以来、庶民教育の教科書として重要な役割を担った  
いわゆる往來物の一つで、五ヶ山の地誌について要説して  
いる。編者・成立年代は明らかでないが、奥書に「文政二卯  
(二八一九) 蘭月(七月) 中旬書之」とあって本書の書写年  
代を示しているのは注目される。現在、前に「加越能名物  
往來」、後に「八尾往來」が合綴されているが、それぞれの  
筆跡は異なっている。

五箇往來

越中五箇山與申者高巖名譽之所也黎  
民合好甚異諸民尋其盪觴如形不非無謂  
往昔戰國比諸家之公武依勅命爲防強敵襲  
來越地雖抽忠節枝犯大敵節從志軍中討  
死故臣二度悲仕余君龍北山中勤農民耕  
作偏入賢者行子孫永相傳依之雲客名士





之舊跡也言葉正字當改識形陋而志  
詩歌管弦道廟文武兩道唯雖似望核  
猴月爲公士之後胤故也以岩路石壁揚家  
棟梁名物爲勝諸宿賣商人訛五箇  
鄉中名物或貴學之望物新載記之系紳  
蠟漆紙蓑燭燭者庄內一繞仕出之名物也  
此外大崩嶋渡原御召蓑皆萍曾代同中折

白茅菅泥並嶋芋織同繹梨谷行纏稽谷  
棖下梨下寫指柱樽木祖山枝木大勘塲枳  
同木地漆谷炭岩淵連弱槎原晒新山枰  
縮大牧黑柿同杆餅惡瀬百瀬塩漬狗脊  
上梨下梨兩谷之下狗脊上梨谷葉長松小  
谷蕪草嶺倉牛房種三名牛房相倉煙州  
城薯蕷同芋下原梨子九里ヶ當串柿北原

芋長崎藏仙綱原峯上百瀬川蕎麥曲赤  
尾小麥水無臭大勘塲熊膽同粟茸曲尾  
椎茸阿別當地茸足倉谷赤獨活中根笋子  
庄川點小谷川岩穴利賀川雜喉蕪久喜者  
五箇一山之名物也石產物任賣人之注文運送  
之亦鄉乾有大牧温泉洗諸人病苦其來  
由尋苜蓿節如來顯爲足折鳩纔成入池

爲見平愈給丈諸人是浴得治萬病其後溫  
湯之近邊標名岩處瑠璃堂建立帝奉綱藥  
師如來尊像号鳩湯山叮嚀堂作虹梁曜雲  
豈靈驗無雙之勝地也東赤尾一向專修有蓮塲  
文明明應之比念佛堅同行者道寺宗之古跡  
是也西赤尾有行德寺南上綱山西勝寺其他乃  
直入之勸念佛造惡不善凡丈六字以名號西

鐵嶺山峯有牛瀧權現社風景言語爲絕  
此外雖多名處舊跡粗畧之柳五兮之諸氏公  
武未繇而專守仁義禮智信乍不及可曉古  
之教法近年若齡之輩忘古實遊民放僇人  
之風俗見習長酒宴遊興孔安國誠不耻爲  
僭上無禮受諸人譏刺令身上忘却其處多兼  
先祖之失家業事未代之耻辱何事如之將

文政二卯蘭月中旬書之

八尾洲

折八片、計天正、牛眼、菅家、且、實、永、年、  
 市、所、同、毫、以、牛、橋、為、音、牛、橋、眼、門、奔、走、牛、常、為、  
 相、牛、指、牛、於、藤、輪、牛、程、牛、果、極、風、扇、極、時、相、  
 影、後、牛、牛、酒、磨、磨、賦、描、真、堂、排、賣、之、九、三、云、牛、  
 市、日、牛、利、加、彌、彌、如、牛、燒、牛、時、極、越、牛、牛、牧、康、牛、  
 牛、是、石、動、牛、第、堂、津、蛇、牛、牛、陸、面、淺、牛、牛、決、定、  
 牛、牛、力、運、抵、日、備、牛、切、著、撰、養、牛、油、菜、牛、被、波、帽、





## 発刊のことば

四季折々の顔を見せるふるさとの山々。この大自然のふところに抱かれて、我々の祖先は脈々と現在に至る系譜を作り上げてきました。その歴史をひもとき、後世に記録を残していくことこそ、現代に生きる我々の使命かと存じます。

この度発刊する『利賀村史 2 近世』は、遠く縄文時代までさかのぼる利賀村の歴史のうち、加賀藩前田家の治政下に置かれたおよそ三〇〇年の歴史を振り返るものです。

思えば、村史の発刊は多年にわたる村民の宿願でありました。しかし、膨大な資料を検証し、真実と真実をつなぎあわせていく作業は、もとより一朝一夕に成るものではありません。発刊に至るまでには、米沢康氏をはじめとする村史編纂委員各位の並々ならぬご尽力がありました。また、村内外の多くの方々からも一方ならぬご協力をいただきました。ここに厚くお礼を申し上げます。

本書が、厳しい自然環境の中で時代の道を切り開いてきた先人の苦勞を偲ぶ手がかりとなれば幸いです。

平成十一年三月

利賀村長

宮崎道正





## 例言

一、利賀村史は三分冊から成り、近世編に相当する『利賀村史 2 近世』を先に刊行した。

一、引き続き『利賀村史 1 自然、古代、中世』『利賀村史 3 近・現代、民俗』を順次刊行する予定である。

一、本文中、故人の敬称は略した。

一、引用史料の字体は原則として常用漢字に改めた。また、変体仮名は、而・江・与・茂・者を残した。合字は<sup>あ</sup>以外はもとの仮名にした。

一、史料中の押印のうち、角印は㊦、丸印は㊧で表した。

一、史料名は、原則として一紙文書を「」、冊子文書を『』で表した。

一、出典および所蔵はできる限り明記したが、頻出史料は文書名のみ記し、所蔵者名などを省略した。所蔵者名と文書の種類については次の一覧を参照されたい。

### 文書名の表記と文書の種類、所蔵先一覧

川合文書	旧戸出村在住無組御扶持人十村文書	富山大学付属図書館蔵
菊池文書	旧野尻村在住無組御扶持人十村文書	富山大学付属図書館蔵
杉野文書	旧大滝村在住五ヶ山才許十村文書	福岡町図書館蔵
十村杉野家文書	杉野文書のうち一部流出分	富山市郷土博物館蔵
加越能文庫	旧加賀藩蔵文書および前田家編輯方採取史料	金沢市立玉川図書館蔵
中島文庫	砺波郡内役宅文書	富山県立図書館蔵

山田文書

砺波郡内役宅文書

福野町図書館蔵

井波町肝煎文書

旧井波町肝煎文書

井波町図書館蔵

南大豆谷村土地文書

碁盤割および地券史料

利賀村大豆谷区有

瑞願寺文書

五ヶ山十村市助文書

平村下梨、瑞願寺蔵

寿川区有文書

須川村肝煎文書

平村寿川区有

山崎家文書

塩硝吟味人・梨谷村肝煎文書

平村梨谷、山崎甚三郎氏蔵

前崎家文書

見座村肝煎文書

平村見座、前崎幸作氏蔵

鉢蠟家文書

塩硝煮屋惣代・下出村肝煎文書

平村下出、鉢蠟孝一郎氏蔵

永森家文書

中畑村役人文書

富山市、永森太一郎氏蔵

真田家文書

塩硝煮屋惣代・真木村肝煎文書

上平村真木、真田治悦氏蔵

羽馬家文書

塩硝煮屋惣代・小瀬村肝煎文書

上平村小瀬、羽馬誠一氏蔵

生田家文書

塩硝上煮屋・細嶋村肝煎文書

上平村細島、生田長範氏蔵

高田重彦家文書

南大豆谷村肝煎文書

婦中町、高田重彦氏蔵

五谷山文庫

西勝寺伝来および住職収集史料

利賀村坂上、五谷山西勝寺蔵

齊藤讓一氏蔵文書

旧井波町才許十村手代文書など

庄川町、齊藤讓一氏蔵

一、口絵写真、栗当の不動明王を除き、青山清寛氏の撮影による。

一、見返しには近世の五ヶ山和紙の伝統を引き継ぐ東中江和紙加工生産組合の「悠久紙」を使用した。



# 利賀村史 2 —近世— 目次

口 絵

発刊のことば……………利賀村長 宮崎 道正

例 言

## 第四章 利賀谷組の村々—藩政下の姿—

### 第一節 藩政の展開—加賀藩の五ヶ山政策—……………三

#### 一 前田氏の五ヶ山領有……………三

前田利家(三) 越中領有(四) 富山藩の成立(五)

#### 二 草高と年貢……………六

納所変遷のあらまし(六) 前田氏領有前後の納所(八) 天正の検地(一二)

目 次

慶長・元和の総検地（一三） 元和の五ヶ山検地（二三） 高と免の決定方法

（一五） 五ヶ山の草高と免（一七） 寛永の御印（二〇） 手上げ（二三）

引き免（二七） 細嶋村・北嶋村の新開（二七） 改作法の実施（三一）

明暦の手上げと村御印（三三） 寛文の村御印（三四） 納所の村々割り付け

（三六） 小物成（三七） 塩硝役金子（四一） 蠟・漆・蓑・紙役金子（四一）

大牧村湯運上（四二） 夏成と冬成（四七） 検地と納所金子（四七）

### 三 藩の機構と職制……………四九

村方の支配機構（四九） 年寄衆・家老（四九） 算用場奉行（五〇） 改作

奉行（五〇） 郡奉行（五〇） その他の役所と役人（五〇）

### 四 十村制度……………五一

起源（五一） 職務（五一） 階級と扶持（五一） 五ヶ山の十村の変遷（五三）

藩政初期の組と与（組）頭（五四） 天保の御潤色（五六）

### 五 十村を勤めた人々……………五七

下梨村市助（五七） 細嶋村源太郎（五八） 細嶋村（金屋岩黒村）九左衛門（六三）

坂上村太兵衛（六六） 祖山村太郎助と下梨村宅左衛門（六六） 岩渕村伊右衛門

（六七） その後の五ヶ山十村（六七） 大牧村六郎右衛門（六八） 五ヶ山惣

代（六八）

### 六 村と人……………六九

村名の固定化（六九） 肝煎（七一） 肝煎扶持（七二） 肝煎の交代（七三）



組合頭（七五）	百姓と頭振（七五）	掛作百姓（七六）	肝煎・組合頭名 一覽表（七七）
---------	-----------	----------	--------------------

## 第二節 五ヶ山の産業 ..... 九〇

### 一 商品生産と判方 ..... 九〇

五ヶ山百姓の生計（九〇）	判方の起源（九二）	貸方の認可（九三）	名称の 変遷（九七）	天保の改革と判方（九七）	奥書証文銀高留の分析（一〇〇）
--------------	-----------	-----------	---------------	--------------	-----------------

### 二 紙稼ぎ ..... 一〇六

1 紙漉きの展開 ..... 一〇六	藩への献上（一〇六）	紙漉きの展開（一〇八）
--------------------	------------	-------------

### 2 紙漉屋と判方商人 ..... 一〇九

楮皮の移入（一〇九）	判方商人の役割（一一一）	文政年間の井波町楮商人 （一一三）	判方制度の利害（一一七）	紙方仕法以前の楮皮管理（一一八）
------------	--------------	----------------------	--------------	------------------

### 3 天保の楮方仕法・紙方仕法 ..... 一二〇

仕法実施の背景（一二〇）	楮ならびに紙方仕法の実施（一二二）	野田紙集所の 設置（一二四）	仕法と福光村平九郎（一二五）	仕法の成果（一二八）	井波 商人の嘆願（一二八）	紙漉屋の直売願い（一二三）	紙方の諸役人（一二三）
--------------	-------------------	-------------------	----------------	------------	------------------	---------------	-------------

4 藩末期の紙生産……………	一三四
坂上村宅右衛門の決算（一三四）	楮ならびに紙方仕法の停止（一三七）
宅右衛門紙方決算書（一三八）	商法会社の設立（一五四）
明治初期の紙漉き（一五七）	佳葉組の設立（一五六）
三 塩硝稼ぎ……………	一五七
1 加賀藩と五ヶ山塩硝……………	一五七
戦国時代の塩硝製造（一五七）	加賀藩への塩硝上納（一五八）
用塩硝（一六一）	御用塩硝の定量化（一六二）
塩硝前銀・御貸米と御延払米（一七〇）	御用箇数の増減（一六七）
方式の定着化（一七三）	延払米の趣旨の転換（一七二）
延払米の運用（一七四）	延払米
灰汁煮塩硝の村高割付（一八三）	塩硝の他国出津（一七九）
2 塩硝煮屋……………	一八七
上煮屋と御用塩硝株（一八七）	上煮屋の成立（一九一）
（一九五）	塩硝関係の村方諸役人（一九九）
上煮屋の株立て制	
3 塩硝の製法……………	二〇五
塩硝の製法と原理（二〇五）	主な製法書（二〇七）
灰汁煮塩硝作り（二一〇）	塩硝土作り（二〇九）
中煮塩硝作り（二一二）	上煮塩硝作り（二二三）
4 藩末期以降の塩硝製造……………	二一四
塩硝の増産（二二四）	株立て制の廃止と復活（二二四）
塩硝産業の終焉（二二七）	



硝石製造組合 (二一八)	二一九
養蚕と生糸	二一九
五ヶ山の糸 (二一九)	二一九
井波の絹業 (二一九)	二一九
五ヶ山の養蚕業 (二二〇)	二一九
五 石 灰	二二一
石灰の普及 (二二一)	二二一
五ヶ山の石灰焼立 (二二二)	二二一
石灰商人の争い (二二三)	二二一
村人との関わり (二二五)	二二一
天保期以降の石灰生産 (二二七)	二二一
石灰焼立の停止 (二二八)	二二一
石灰焼立の再開 (二二八)	二二一
六 蓑	二三〇
五ヶ蓑 (二三〇)	二三〇
蓑毛 (二三一)	二三〇
製法 (二三二)	二三〇
七 農林漁業	二三四
1 農 業	二三四
近世の土地利用 (二三四)	二三四
享保十九年五ヶ山出来雜穀調べ (二三五)	二三四
『私家農業談』 (二三六)	二三四
『利賀谷組農事』 (二三七)	二三四
2 林 業	二四〇
七木の制 (二四〇)	二四〇
百瀬川両村惣山の伐採 (二四一)	二四〇
大勘場村持山の伐採 (二四四)	二四〇
押場村雜替畠蔭木の伐採 (二四五)	二四〇
惣山と掛作百姓 (二四六)	二四〇
3 漁 業	二四九
漁業の小物成 (二四九)	二四九
五ヶ山の無役鮎簀 (二四九)	二四九
下流村々との争論 (二五一)	二四九

無役築一枚となる (二五三)	
八 その他の産物と稼ぎ	二五五

熊胆 (二五五)	蠟と漆 (二五八)	山菜・茸類 (二五八)	その他の産物
(二六〇)			

### 第三節 碁盤割―土地制度……………二六一

#### 一 碁盤割制度……………二六一

制度の概要 (二六一)	五ヶ山の碁盤割 (二六二)	施行の直接原因 (二六四)
内検地と田地ならし (二六五)	碁盤割の古記録 (二六七)	

#### 二 南大豆谷村の碁盤割……………二六八

##### 1 事前の作業……………二六九

実施の決定 (二六九)	出願と許可 (二七〇)	分地人・竿取人の依頼 (二七一)
-------------	-------------	------------------

碁盤割定書の提出 (二七二)
----------------

##### 2 耕地の割り換え……………二八〇

耕地と山地 (二八〇)	竿初 (二八一)	引地 (二八二)	居屋敷引地 (二八三)
その他の引地 (二八五)	引地の作業順序 (二八六)	くじ組とくじ割 (二八七)	
くじ替 (二九二)	追掛割と拾割 (二九四)	耕地の割仕廻 (二九八)	引地と



くじ地 (二九八)	測量方法 (二九八)	三〇〇
3 山地の割り換え	隣村との境界の確認 (三〇一)	山地のくじと測量 (三〇一)
	(三〇二)	その他のくじ割 (三〇三)
		山地の割仕廻 (三〇四)
4 ブチ・ウの作成と決算	歩帳・手歩帳・小分帳 (三〇四)	決算 (三〇五)
5 境界の表示	耕地の境界表示 (三〇五)	山地の境界表示 (三〇六)
6 竿除地	7 替地	北大豆谷村の碁盤割
		耕地の割り換え (三一四)
		金割・追掛割・拾割 (三一六)
4 下利賀村の碁盤割	下利賀村の碁盤割史料 (三一八)	歩引き (三一八)
	(三二二)	山地の割り換え (三二三)
		寛政の碁盤割 (三二四)
		天保からの碁盤割 (三二四)
		雪持林と風持林 (三二六)
5 草嶺倉村の碁盤割	文化年間の碁盤割 (三二六)	間数割 (三二七)
		嘉永の碁盤割 (三二八)

## 六 各地区の碁盤割史料 ..... 三二八

史料の区分 (三二八)	下原 (三三一)	栗当 (三三三)	高沼 (三三三)
押場 (三三五)	岩湧 (三三六)	上畠 (三三八)	細島 (三三九)
(三四二)	坂上 (三四四)	大勘場 (三四九)	百瀬川 (三五七)
(三六三)			上百瀬

## 七 碁盤割と切高 ..... 三六七

取高歩帳 (三六七)	明治以降の土地売買 (三六九)
------------	-----------------

## 八 明治以降の土地制度 ..... 三七〇

地租改正と碁盤割制度 (三七〇)	地券と碁盤割手歩帳 (三七二)
------------------	-----------------

## 第四節 五ヶ山農民の生活 ..... 三七三

## 一 百姓の暮らし ..... 三七三

二日読 (三七三)	衣類の制限 (三七四)	食物の制限 (三七五)	飲酒の禁止
とぜいたくの戒め (三七五)	報恩講と料理 (三七七)	住宅建築の制限 (三七九)	
博奕 (三七九)	万雑と余荷 (三八一)	威し鉄砲 (三八三)	葬儀と香典 (三八五)

## 二 戸口の変遷 ..... 三八七

宗門帳と百姓縮り (三八七)	百姓の相続 (三九一)	百姓の名前 (三九三)
----------------	-------------	-------------



縁組 (三九三)      分家 (三九五)      借家稼ぎと引越し (三九五)      家数・百姓数  
と人口の推移 (四〇二)

三 岩渕村伊右衛門家の命運 ..... 四〇三

岩渕村伊右衛門 (四〇三)

第五節 近世の交通 ..... 四一五

一 交通路の変遷 ..... 四一五

二ッ屋越え (四一五)      栃原峠 (四二〇)      杉谷越え (四二〇)      仙納原大橋・

小橋 (四二一)      飛驒街道の変遷 (四二六)      だお道 (四二九)      下原―北原・

長崎間の籠の渡し (四三八)      籠の渡りから渡し舟へ (四四一)      利賀谷から百瀬

谷への交通 (四四五)

二 番 所 ..... 四四七

口留番所 (四四七)      過書と往来手形 (四四八)      番所を通過した品々 (四五二)

番所の収支 (四五三)      柵の設置 (四五四)      大勘場口の番人 (四五四)      飛驒

への塩の移送 (四五五)      富山藩境での洩物改め (四五七)      洩物改番所と鳶役

(四五八)      関所・番所の廃止 (四六一)

天保の飢饉と農民階層の分極（四六二） 天保の改革（四六二） 高方仕法の内容

（四六三） 町人持高の没収（四六三） 質入高没収（四六四） 掛作高買戻

し（四六六） 仕法による取揚高（四六九） 個人別の被取揚高（四七二）

在地豪農と高方仕法（四七四）

事件の背景（四七七） 井波町の動き（四七九） 利賀谷百姓の蜂起（四八〇）

打ち毀し（四八一） 三宅修理の日記（四八三） 捜査の進展（四八五） 利賀

谷百姓の取り調べ（四九〇） 茂右衛門入牢（四九四） 公事場での詮議（四九六）

村役人の投獄（四九九） 相次ぐ牢死（五〇〇） 代牢願（五〇二） 出牢と牢

死の伝達（五〇三） 量刑の決定（五〇六） 磔（五〇七） 入牢者の罪状（五

〇九） 禁牢者の家族（五一三） 関連書物の出版（五一五） 安政義人慰霊之

碑（五一八） 史料の所在（五一九）

年 表

索 引

あとがき